

特別活動

菊池 勇希

自己指導能力や自己有用感を育み、 自己実現の喜びを味わう特別活動の展開

I 特別活動研究の方向性

1 主題設定の理由

現在、社会を取り巻く環境は大きく変化し、予測困難な時代となっています。そのような中、近年、いじめの認知件数や不登校児童生徒数が過去最多となっており、その事態は深刻化しています。こうした状況の中、児童生徒の成長を促して問題行動を未然に防止する積極的な生徒指導の充実や、多様な背景をもつ児童生徒に寄り添った支援や指導体制を確立し、全ての児童生徒が安心して通える学校を実現することが、より一層重要となっています。このことに関わって、「小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年）」には、下記のこと示されています。

特別活動の指導は、〈中略〉、深い児童理解と相互の信頼関係を前提とした生徒指導の充実が不可欠である。また、生徒指導のねらいである自己指導能力や自己実現のための態度や能力の育成は、特別活動の目標と重なる部分でもある。

（第2章第2節の4（4）「生徒指導等との関連」、下線は筆者）

本校では、学級活動はもとより、児童会活動やクラブ活動、各種学校行事、異学年集団の活動（通称「12人組」）など、特色ある取組を進めてきました。特に、前研究では、学級活動(1)の前後活動を指導計画に位置付けて主体的に活動を進めたり、その過程において「貢献」と「承認」による自己・相互評価によって自己有用感を高めたりする成果が得られました。

本校児童は、学校教育目標である「主体的人間の形成」を目指す一方、以前に比べて、自己の生活や学級・学校生活といった集団の質的向上に消極的であることも否めません（新研究に関する教員アンケートより）。また、学校内外における生活上の諸課題を抱えた児童も一定数いることから、生徒指導上の問題を未然に防ぐ特別活動の充実が必要不可欠であり、前研究の成果を踏まえつつ、特に、意図的・計画的に進める学級活動(2)、(3)の充実が重要であると考えました。

以上のことから、研究主題を「自己指導能力や自己有用感を育み、自己実現の喜びを味わう特別活動の展開」と設定しました。本校が目指す充実した特別活動を展開することにより、よりよい学級・学校集団を形成し、生徒指導上の諸問題を早期発見や早期解決、未然防止を図ることに寄与させていきます。

自己指導能力	自らの行動を決断し、実行する能力です。主として、学級活動(2)(3)において、意思決定と実践の積み重ねを通して育みます。
自己有用感	「他者の役に立った」、「他者に喜んでもらった」といった他者との関わりを通して育まれる感情です。主として、学級活動(1)において、「社会や他者の役に立った」ことを自覚する「貢献」と、他者からの肯定的な評価である「承認」を通して育みます。
自己実現の喜びを味わう	自己指導能力や自己有用感を高めることを通して、自己の生活の改善を図り、自らのよき生かして「なりたい自分」が実現したことに喜びを感じることで。

2 目指す「新たな価値を創り出す」児童の姿

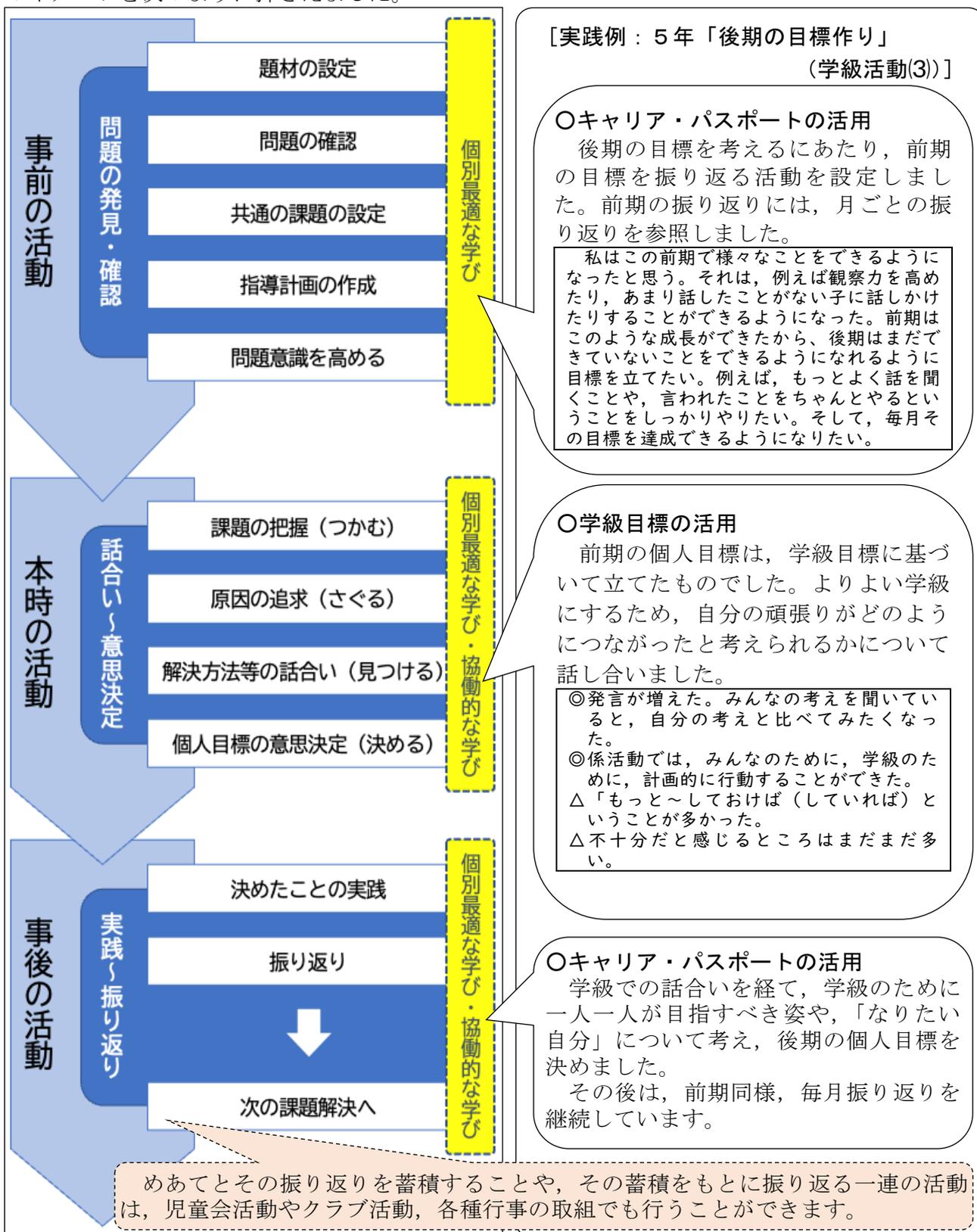
特別活動における「子供が創り出す『価値』」を以下のように押さえました。

①自ら問いをもって、探究することの価値	問題の発見や問題意識の共有を通して問題意識を高めたり、自己の課題に気付いたりする。
②人と関わり、協働して探究することの価値	話合いや体験活動等において他者とかかわり、共に解決方法を考えることを通して自己の意思決定につなげる。
③探究する中で得た内容知や方法知の価値	意思決定したことを継続して取り組んだり、その取組を通して自己の課題に対する解決策を身に付けて自己の生活に生かしたりする。

II 研究内容の具体

1 「探究型の学び」のイメージ

自己実現の喜びを味わう特別活動を展開するためには、学校生活の充実と向上を目指し、他者と協力したり、個人として努力したりしながら自主的、実践的に取り組むことにより、自己指導能力や自己有用感を育むことが大切です。本校の特別活動では、自己の生活や集団の質的向上を実感しながら、自己実現に向けてのサイクルを自ら回すことをねらい、「探究型の学び」のイメージを次のように押さえました。



2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン

特別活動の特性として、事前から本時、事後までの一連の学習過程があります。特に、学級活動(2)、(3)では、自己実現に向けて、児童一人一人が取り組むべきことを意思決定し、実践につなげていくことに意義があります。そこで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点から、自分と向き合ったり、他者と関わったりする中で「なりたい自分」を見いだし、実践への意欲化につなげる手立てについて研究を進めました。

◆特別活動における「個別最適な学び」

自己実現に向かうためには、自己の現状を理解したり、解決すべき自己の課題や将来に向けた自己の生き方に関する課題を見いだしたりする。

◆特別活動における「協働的な学び」

自己実現に向かうための意思決定までの過程において、学級内における共通の問題についての原因や改善の必要性を探ったり、具体的な解決方法などを見付けたりする。

《自己実現に向かうための事前の活動と事後の活動》

○課題意識を高める活動

- ・授業までの一定期間、継続して対象（生活習慣など）を記録する。
- ・アンケートフォームを活用し、現在の自分を見つめる。

[実践例：1年「学校で困っていること」

(学級活動(3))

小学校生活に慣れてきた頃、学習や友達などのことについて困ったことが出始めてきます。

事前に予告して自分のことを振り返ることにより、話し合いで発表する内容を考えることを促します。教師は、実態を押さえた上で、授業までの様子を見取り、発表を支援します。

○自己実現へ向かう自分の姿を記録する

- ・授業後の一定期間、継続して対象（生活習慣など）を記録する。

《自己実現に向かうための協働的な学びを支える学習の工夫》

○話し合う視点や立場に応じたグループ構成

- ・原因だと考えられる視点ごとにグループを構成する。
- ・解決策の視点ごとにグループを構成する。

○話し合い活動を支えるICTの活用

- ・共同作業ができるアプリケーション（Google Jamboardやロイロノート・スクールの共有ノート等）に記録しながら進める。
- ・他のグループの記録内容を参考に話し合いを進める。



[実践例：5年「前期の係活動を見直そう」(学級活動(3))]

日頃から係で運用している共有ノート（ロイロノート・スクール）を活用し、役割分担に偏りがいないか、アンケートを基に取り組むべきことはないか、といった、業務の見直しについて考えました。

○ゲストティーチャー等の活用

課題の解決方法や意思決定の参考となる講話をしてもらう

- ・ 養護教諭や栄養教諭等、指導内容に適した専門性のある人材を活用する。
- ・ 上級生との関わりを設定する。

※直接話を聞くことが難しい場合は、事前に動画を撮影するなど、ICTを活用する。

3 子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫

特別活動では、集団活動の意義や役割を理解し、多様な他者と関わる上で、様々な活動に自主的、実践的に関わろうとする態度を養うことが必要です。一連の学習過程を通して、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図るために、自分自身の活動を振り返る手立てについて研究を進めました。

○意思決定に至った過程の振り返り

- ・ 「決める」までの段階における話合い（主として、「さぐる」「見つける」）が、自分の意思決定とどのように関わっていたのかを振り返る。

20220511「春の交通安全」

1 交通事故にあわないために

①周りを見る。
②信号・横断歩道を守る。（青になっても左右を確認）
③自転車では歩行者優先。

2 振り返り
交通事故は、絶対にあってはいけないと思った。自分も自転車に乗ることがたまにあるけど、今日の動画を見て、自転車で乗るときは、今まで以上に注意をしないといけないと思った。また、自分が歩いたりしているときも、右のようなことを気をつけていきたいです。

- ★左右の確認
- ★ゆっくり曲がる
- ★目視
- ★標識を確認
- ★指定されたところを通る
- ★周囲の確認

[実践例：5年「春の交通安全」(学級活動(2))]
自転車の利用が増えてくる季節において、登下校や放課後、休日の交通事故防止について考えました。動画資料の視聴を経て、自分が実践すべき交通事故防止の具体的な行動目標を考えました。

○意思決定した実践の振り返り

- ・ 実践したことを振り返る際に、「なりたいたい自分」にどれだけ近付いたのかを振り返る。
- ・ 5段階（5・4・3・2・1）で自己評価する。
- ・ 具体的な変化や、継続することができたかどうかについて、自己評価する。

○実践の継続化を図るための振り返り

- ・ 短学活（朝の会、帰りの会）等で、その後の取組について挙手等で簡単に自己評価したり、具体的な実践例を交流し、相互評価したりする。
- ・ 学級通信等で、取組の継続事例について紹介する。

2学期開始！～「2学期は5年生の『本番』」～

25日間の夏休みが明け、2学期がスタートしました。校舎は久しぶりに子供たちの元気な声で活気に満ちています。

17日(金)の朝、Googleクラスルームに接続を前提し、その中で、「2学期開始にあたり、今期していること一語どうぞ」と、コメントの入力を求めました。すると、「2学期も楽しくやっていた」「新しい服装で通っていきなさい」といった、前向きなコメントが多数寄せられました。朝の会では、「ここ(2学期)に通っていきなさい」という意味で「覚悟」することなく、1学期の楽しかった雰囲気が残っている感じ」という嬉しい声も聞かれました。

1学期の生活(2学期の生活)では、5年生の2学期というものをどのようにイメージしているのかを考えたことから始めました。その中で、「5年生の本番」という皆さんの思いがけず、1月に入学している入学準備委員会(オープンスクール)では、来年度、5年生という立場で迎えることになる現5年生が関わる部分があります。そこを起点に、6年生から仕事を引き継ぎながら5年生が主体となって取り組むことが増えてきます。考えられる前から、授業の経験では、2学期の生活を見通した今、一人一人どのように過ごしたらよいか、というところを考えた時間となりました。自分の自分の生活を管理し、具体的なプランを記述する事が求められました。

授業形式は短時間、発表、当番活動、周囲の表彰等、気持ちのよい活動が目立った2学期初日。2学期のスタートにはよい一日となりました。

<p>●私に對しても思いやりを持ち、信頼関係や、尊重を促す。</p> <p>●色々なことにチャレンジして、自ら主体的に行動する。</p> <p>●学校からこころ、その決定やいかにどう楽しむかを自分たちで考え、自分の意思で行動する。</p> <p>●学期の中で、絆を深めてあげば、5年生が教える立場になれたときに、その期間を有意義に過ごせるから、楽しい。</p> <p>2022年8月17日(水) 9:25</p>	<p>2学期は下級生にうまく受けつられて、一学期の真ん中の学期として一学期で学んだことをそのまま活かせるように、重要な学年だからこそささげてあげられるようにこれからの2学期を過ごしていきたいかなと思います。</p> <p>2022年8月17日(水) 9:25</p>	<p>高学年の生活</p> <p>1.高学年という自覚を持ち、年下の子に優しく接する。</p> <p>2.各や当番の仕事をしっかりやり遂げる。</p> <p>3.全員で調子よく協力して一つの課題に向かっていく</p> <p>2022年8月17日(水) 9:25</p>
<p>私は、発表が苦手なので新しい子のための自分のために発表を授業のときに、多くする。5年生になるための、大きなチャレンジで、楽しみもあるけど、前の6年生・5年生もよく上手にできるの不安。そのためには、今のクラスでできることをしていきたいです。</p> <p>2022年8月17日(水) 9:25</p>	<p>●どのように生活していく？</p> <p>●2学期の目標やめあめ</p> <p>●協力ができるようになる</p> <p>●学年ごとにチャレンジする</p> <p>●発表を頑張る</p> <p>●高学年の生活は前よりやる</p> <p>●1年生</p> <p>●「お事案」になるには？と考える行動する</p> <p>●気を散らさず行動する。(本番だから)</p> <p>2022年8月17日(水) 9:26</p>	<p>高学年として低学年のお手本になったり学級を交えるように学年関係よく仲良くしていきたい</p> <p>オープンスクールなどは自分が前の5年生にされたことを1年生にしていきたい</p> <p>2022年8月17日(水) 9:26</p>
<p>これからの生活は、一つひとつの行動に責任を持ち、今自分にやるべきことをしっかり、自分は今何をしたらいいかなどを心がけたい。なぜなら、私は考えずには色々と行動してしまおうから。そして、もう5年生だから、今までやってもらっていた行事なども自分もチャレンジしてみたい。</p> <p>2022年8月17日(水) 9:26</p>	<p>●どのように生活していく？</p> <p>●高学年ということ意識して、学習発表会やオープンスクールの行事をこなしていこうかな。</p> <p>2022年8月17日(水) 9:26</p>	<p>2学期では、クラス全員でクラスを交えられるよう活動していきたい。また、誰かに優しく接したい。チャレンジしたりして知識を得て、学校のお手本になれるような高学年を目指して頑張る。当番やかがり頑張る。</p> <p>2022年8月17日(水) 9:26</p>

[実践例：5年「2学期の生活」(学級活動(3))]
2学期の初日に、2学期の流れを大まかに確認するとともに、5年生としてのあるべき姿を考えました。
2学期は学習発表会の行事や児童会集会活動等で学校を支える立場の役割も多くあったことから、その取組の前後にこのときに意思決定したことを振り返りながら、活動に臨みました。

Ⅲ 実践事例

5年生実践 『デジタル端末利用の約束事～「デジタル市民」の一人として～』

実践のテーマ：『デジタル市民』の一人であることを自覚し、
責任をもってデジタル端末を利用し続けるための個人目標を設定する学習

1 研究授業のねらい

本活動は、「学級活動(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の「ア 基本的な生活習慣の形成」「イ よりよい人間関係の形成」「ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」に関わるものです。

児童及び保護者を対象とした事前のアンケートから、①学習端末の使い方についての課題や不安、②家庭での端末利用やSNS利用における課題や不安、の2点について、児童と保護者の認識に大きな違いがあることが分かりました。「デジタル社会」を生きる子供たちは「デジタル市民」の一人として、デジタル・テクノロジーを適切に活用して生きること求められており、従来の情報モラル教育から「デジタル・シティズンシップ」の考え方を軸とした指導の必要性があると押さえました。

【重視した児童及び保護者の実態（アンケート結果の一部）】				
課題や不安に感じていること	児童		保護者	
学習端末の使い方 【※1】	ある 64%	ない 36%	ある 79%	ない 21%
家庭での端末利用やSNS利用 【※2】	ある 20%	ない 80%	ある 90%	ない 10%

そこで、「デジタル社会」の一員として責任をもって行動していくために必要なスキルを考え、実践していくために、本活動を設定しました。事前の取組では、上記のアンケートの他に、1週間の端末利用状況（利用目的、利用時間、健康状況など）を記録しました。

本時では、上記のアンケートの提示から児童と保護者間の認識の違いに気付き、諸課題やその解決方法を考え、自分の課題を解決するための目標を設定しました。

事後の取組では、目標の達成を目指して1週間を過ごし、「デジタル市民」としての責任ある行動を続けることにより自己指導能力の高まりに気付いたり、その自己指導能力を間もなく訪れる冬季休業中で発揮できるように計画して実践したりすることにつなげました。

事前の活動から事後の活動を通して、集団や社会に参画し、様々な問題を主体的に解決しようとする児童の育成を図ることをねらいました。

2 単元の指導計画

時	主な活動内容	「新たな価値を創り出す」児童の姿
事前	○事前アンケート（児童，保護者） ○1週間のデジタル端末利用記録 （利用目的，利用時間，健康状態，感想）	アンケートの結果から，児童と保護者の問題意識の違いを認識し，問題意識を高める。
本時	<学級活動> つかむ・・・諸課題に気付く さぐる・・・諸課題の背景を考える 見つける・・・解決方法を考える 決める・・・実現可能な目標を意思決定する	解決方法等を話し合うことを通して，自分にできそうな解決方法と目標を意思決定する。
事後	○決めた目標の取組と振り返り（1週間） ○事後アンケート（児童，保護者） ○冬休みの生活における目標設定と実践 （12月）	実践から，目標への達成状況を振り返るとともに，新たな課題を設定する。

3 本時の学習

(1) 本時の目標

デジタル端末の利用目的や利用時間、健康への影響などに関する諸課題に気付き、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定する。

(2) 本時の展開

活動の流れ	○主な学習活動と活動内容	◇研究との関わり・留意点
事前の取組	○事前アンケート（児童，保護者） ○1週間のデジタル端末利用記録 （利用目的，利用時間，健康状態，感想）	◇「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン 研究視点2
本時の活動 1 つかむ	○「『デジタル？』に当てはまるものは何か。」 ・デジタル社会 ・デジタル庁 ・デジタル機器 ○事前アンケートの結果を提示する。 （アンケート結果は前頁【※1】参照） ・自分たちと保護者では逆の結果だ。 ○「この現状で、『デジタル市民』として成長し続けることができるか。」 責任をもってデジタル端末を利用する「デジタル市民」になるためには？	・一人一人が「デジタル市民」であることを押さえる。 ・この段階では，詳細は明かさない。
2 さぐる	○保護者が感じている課題や不安について，アンケート結果の詳細を予想しながら明らかにする。 （アンケート結果は前頁【※2】参照） ○保護者が課題や不安を感じる理由について考える。 ○現状のように，児童と保護者のギャップが大きいままだと，どのようなことになるだろうか。 責任をもってデジタル端末を利用する「デジタル市民」として必要なスキルを考えよう。	◇「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン 研究視点2 ・1週間のデジタル端末利用記録を見返す。 ◇子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫 研究視点3
3 見つける	○3つのカテゴリについて，グループを話し合う。 ①利用目的 ・何となく使っていることもあるから，「何のために」をはっきりさせて使う。 ②利用時間（時間帯）と健康 ・目を休めるために休憩時間が必要だと思う。 ③SNSの使い方 ・誰かが見たときに不快にならない言葉を使う必要がある。 ○話し合った解決策を交流する。 ○本校の担当教諭からの話を聞く。 ①利用目的・・・PC管理部長 菊池先生 ②利用時間と健康・・・養護教諭 道木先生 ③SNSの使い方・・・生徒指導主事 林先生 ○グループで考えたスキルを振り返り，改めて大切だと感じたことや，付け足すことを話し合う。	◇「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン 研究視点2 ・Jamboardのシートに記録しながら話し合う。 ◇子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫 研究視点3
4 決める	○話し合っ考えたスキルを実践できるように，1週間の個人目標を立てる。 ○決めた目標を発表する。	デジタル端末の利用目的や利用時間，健康への影響などに関する諸課題に気付き，解決方法などについて話し合い，自分に合ったよりよい解決方法を意思決定している。 【思】（目標シート）
事後の取組	○決めた目標の取組と振り返り（1週間） ○事後アンケート（児童，保護者） ○冬休みの生活における目標設定（12月）	◇子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫 研究視点3

4 授業の実際

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン

(1) 課題意識を高める活動

今回の活動では、デジタル端末の利用に関わる自己指導能力に向き合い、現状を捉え、諸課題に気付くことが必要です。そこで、児童と保護者を対象に、事前のアンケートを実施しました。このことは、下記の活動を促進することにつながると考えました。

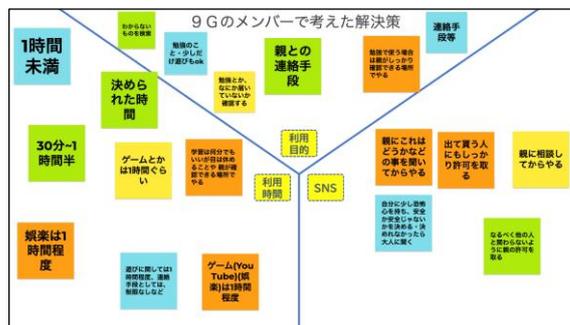
個別最適な学び	協働的な学び
アンケートに記入することと、その結果を見ることにより、日常的なデジタル端末の利用状況を省察することができる。	児童と保護者の認識の違いが大きかった2つを提示することにより、＜さぐる＞＜見つける＞の段階における話し合い活動を促進することができる。

＜つかむ＞の段階では、「学習端末の利用にあたって課題や不安に感じていること」のアンケート結果（1 研究授業のねらい【※1】を参照）を提示しました。すると、「児童よりも保護者の方が課題や不安に感じている」という差があることに驚く様子が見られ、学級の実態や現状を把握することができました。

続いて、＜さぐる＞の段階では、「家庭における端末やSNSの利用にあたって課題や不安に感じていること」のアンケート結果（1 研究授業のねらい【※2】を参照）を提示しました。すると、「（課題や不安に感じていることが）児童と保護者でほぼ逆転している」ことに気付くとともに、「『課題や不安に感じていることがない』に向かっていくためには、何を考えていけばよいのか」と、その原因を探ることにつながることができました。

(2) 話し合い活動を支えるICTの活用

＜見つける＞の段階では、ここまでの段階で明らかになった諸課題に向き合い、グループで解決策を話し合うこととしました。各自が考えたことを瞬時に反映したり、比較したり分類したりすることが容易であることから、Google Jamboardに記録することにしました。必要に応じて他のグループの解決策を見ることもできるため、話し合いに必要な情報を集めたり、個人目標を設定する活動の際にも参考にしたりする姿が見られました。



【話し合いに使用した実際のGoogle Jamboard】

(3) ゲストティーチャー等の活用

学級活動(2)は、学級活動(1)に比べて、教師が主導で意図的に進める部分が大きいです。児童が主体となって協働しながら解決策を考える段階もありますが、健康や安全に関わる部分は、明示することも必要です。そこで、校内でそれぞれの役割を担う教師からの話を聞く場面を設定しました。解決策の視点に合わせて、端末の利活用に関することを統括するICT担当教諭、生徒指導を統括する生徒指導担当教諭、健康に関することを統括する養護教諭の3名からの話を設定しました。その話から、解決策を考える上で不十分な点はないか、重要な部分を押さえているかどうかなどを見直し、よりよい解決策を考える話し合いを促しました。



【生徒指導主事による話を聞く児童】

子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫

今回の活動では、本時と事後の取組で、自分の行動について振り返る場面を設定しました。

本時では、保護者アンケートの詳細をくさぐる>段階において、事前の取組で記録していたデジタル端末の利用状況について振り返りました。このことにより、話し合い活動の中で、「意外と（端末の）使用時間が多かった。」など、意思決定に至る過程を振り返ることで、解決策を考え、意思決定につなげることができました。

デジタル端末の利用記録				5年1組(1)番 氏名	
月日(曜日)	利用端末	利用時間帯	利用時間(分)		1日を振り返って感じたこと
11月29日(水)	スマホ	夜	60分	YouTube	
	iPad	朝昼晩	120分	ゲーム、YouTube	夜はほとんど端末を使っていたことに気づいた。
	スイッチ	夜	60分	ゲーム	
11月30日(木)					非記録をし忘れていた。
12月1日(金)	スマホ	夜	60	電話	
	iPad	朝昼晩	145	ゲーム、YouTube	平日でもゲームを続けていることがわかった。
12月2日(土)	スマホ	夜	60	電話	
	iPad	朝昼晩	135	ゲーム、YouTube	スマホがほとんど電話やタブレットはほとんどゲームなどをしてることがわかった。
12月3日(日)	タブレット	朝昼晩	200	ゲーム、YouTube	
	スマホ	夜	60	電話	休日はいつよりも端末を使っている時間が長いことがわかった。
12月4日(月)	スマホ	夜	60	電話	
	iPad	朝昼晩	220	ゲーム、YouTube	電話しながらゲームをしていたから使っている時間が長いことがわかった。
12月5日(火)	スマホ	夜	60	電話	
	iPad	朝昼晩	130	ゲーム、YouTube	まだなと遊んでいたからあまり端末を使っていないことがわかった。

【事前の取組で使用した実際のGoogleスプレッドシート】

IV 1年次研究の成果と課題

1 研究の成果

- 事前のアンケート調査により、<つかむ>の段階において児童が課題意識を高めたり、<くさぐる>の段階において課題となっていることの原因を探ったりすることにつながりました。
- 共同作業ができるアプリケーションを使用したり、ゲストティーチャーによる話を聞く場面を設定したりすることは、課題に対するよりよい解決策を協働的に考えることにつながりました。
- 意思決定に至るまでの過程を振り返ることで、これまでの自分の姿を省察するとともに、自己実現へ向けての解決策を考えたり意思決定したりすることにつながりました。

2 今後の課題

- <つかむ>段階における課題意識を高める活動において、学校行事や集会活動等の振り返りを生かすなど、学級活動(2)、(3)とのつながりをもたせる研究を更に進める必要があります。
- 意思決定を経て立てた個人目標を振り返ったり、事後の活動を継続しながら必要に応じて修正したりする場合において、そのタイミングについて更に研究を進める必要があります。

V 引用・参考文献

- 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年7月
- みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編 国立教育政策研究所教育課程研究センター 文溪堂 平成31年1月
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 特別活動】 国立教育政策研究所 東洋館出版社 令和2年6月
- 初等教育資料 No.1013「特集Ⅰ 生徒指導の充実」 文部科学省 東洋館出版社 令和3年11月
- 初等教育資料 No.1020「特集Ⅱ 学習指導要領における指導のポイント〔特別活動〕」 文部科学省 東洋館出版社 令和4年5月
- 道徳と特別活動 Vol.38 No.1「連載 自己指導能力や自己実現につながる力を育む 指導の充実」 文溪堂 令和3年4月
- 道徳と特別活動 Vol.38 No.9「連載 自己指導能力や自己実現につながる力を育む 指導の充実」 文溪堂 令和3年12月
- 特別活動で、日本の教育が変わる！ 杉田 洋 稲垣 孝章 小学館 令和2年7月